

「ユーザ・コミュニティ構築による 持続可能なシステム改善の枠組みの 形成」に係る調査報告書

次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業
学術機関リポジトリ構築連携支援事業
平成 20-21 年度委託事業（領域 2）

「ユーザ・コミュニティ構築による持続可能なシステム改善の枠組みの形成」

代表機関：千葉大学
分担機関：大阪大学, 広島大学, 島根大学
連携機関：香川大学

2009 年 2 月

目 次

1. はじめに	3
1.1. 本調査の目的・趣旨	3
1.2. 調査対象	4
1.3. 調査方法	5
2. 機関リポジトリソフトウェアの導入比率・導入理由・管理体制等	6
2.1. 機関リポジトリソフトウェアの導入比率	6
2.2. 各機関リポジトリソフトウェアの長所・短所	7
2.3. 機関リポジトリソフトウェアの選定理由・導入方法	10
2.4. 機関リポジトリソフトウェア導入後のコンピュータ及びネットワークの管理体制	12
3. 機関リポジトリ未設置の理由等	13
3.1. 機関リポジトリ未導入の理由・問題点	13
3.2. 機関リポジトリソフトウェアに望むこと	13
4. 機関リポジトリ構築検討段階での問題	14
4.1. 機関リポジトリソフトウェアの情報収集における課題	14
4.2. 既存リポジトリを一時的に貸すことによる可能性	14
4.3. 既存リポジトリを一時的に借りることによる可能性	14
5. 機関リポジトリ担当者育成の問題	15
5.1. 機関リポジトリソフトウェアの設定・維持に関する担当者育成の課題	15
6. 共同リポジトリの評価	16
6.1. 共同リポジトリの評価	16
7. ユーザ・コミュニティで交換されるべき情報等	17
7.1. 機関リポジトリソフトウェアに必須と考える機能	17
7.2. ユーザ・コミュニティの有用性	17
8. まとめ	19
8.1. 本調査による知見	19
8.2. 本調査そのものの問題点	21
8.3. 本調査における反省点	21
8.4. 本調査とは直接関係ないが未導入館の意見	22
【参考資料】	23
参考資料 1 調査票	23
参考資料 2 回答データ	24

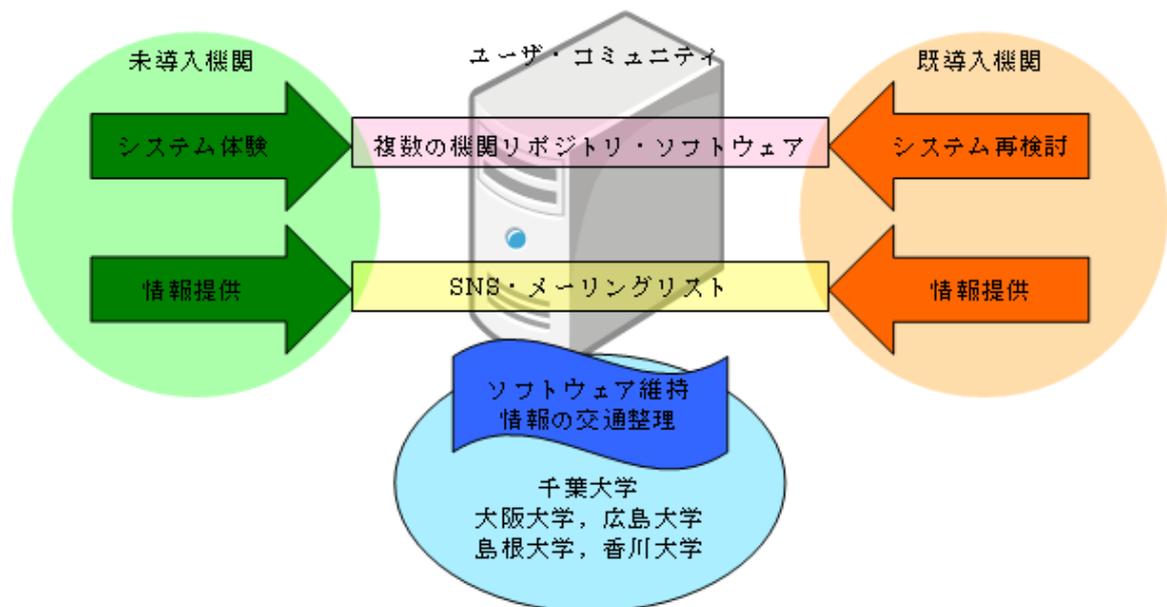
1. はじめに

1.1. 本調査の目的・趣旨

本調査は、次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業・学術機関リポジトリ構築連携支援事業・平成 20-21 年度委託事業（領域 2）の、千葉大学が代表機関、大阪大学、広島大学、島根大学が分担機関、香川大学が連携機関として受託した「ユーザ・コミュニティ構築による持続可能なシステム改善の枠組みの形成」プロジェクトの一環として行ったものである。

「ユーザ・コミュニティ構築による持続可能なシステム改善の枠組みの形成」プロジェクトは、下図のように、複数の機関リポジトリのソフトウェアを試用できる「機関リポジトリ・デモサイト」を構築し、機関リポジトリ未設置機関が試験的かつ手軽に機関リポジトリを体験できる場を設けるとともに、既に機関リポジトリを設置している機関も含めて、主にデモサイト上の機関リポジトリのソフトウェアについての情報を交換することで、今後の機関リポジトリに必要と思われるシステムの要件などについての検討を行うこと、また、メーリングリストや SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などを用いて、機関リポジトリ設置の初期段階に生じる問題などを共有すること、これらにより「ユーザ・コミュニティ」を構築し、持続的かつ安定的な機関リポジトリの運営に寄与することを目的としている。

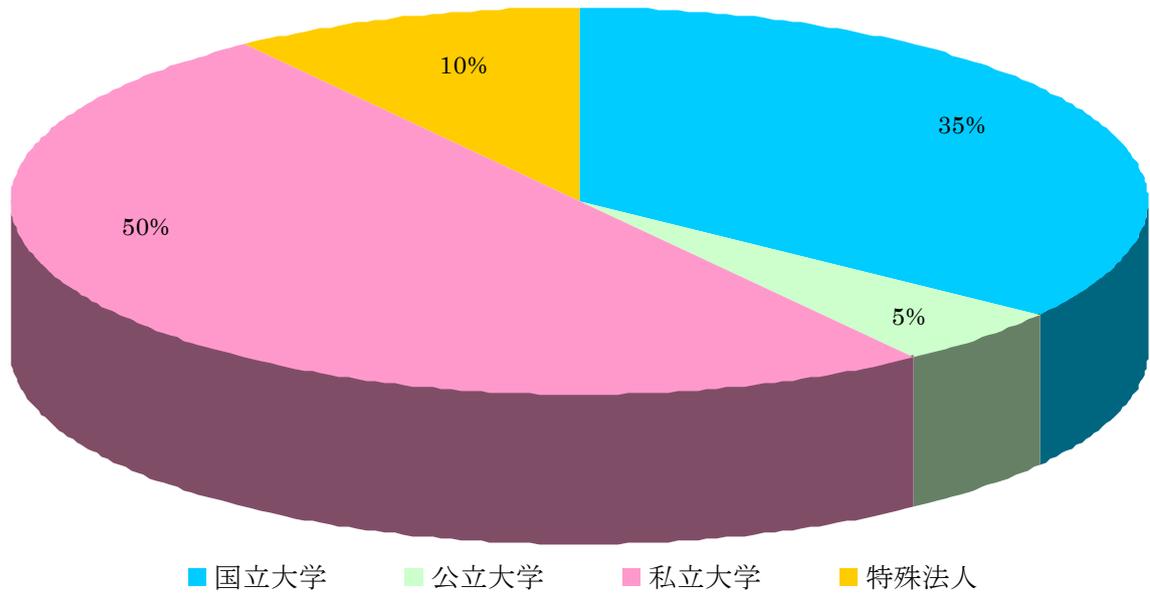
「ユーザ・コミュニティ」構築の準備段階として、ここ数年間に導入された機関リポジトリの各種ソフトウェアの評価、運用の実態、これから導入する予定の機関に対して、構築する上での障壁、効果、コストに関する調査を行うことにより、「ユーザ・コミュニティ」の有用性の検証を行った。



1.2. 調査対象

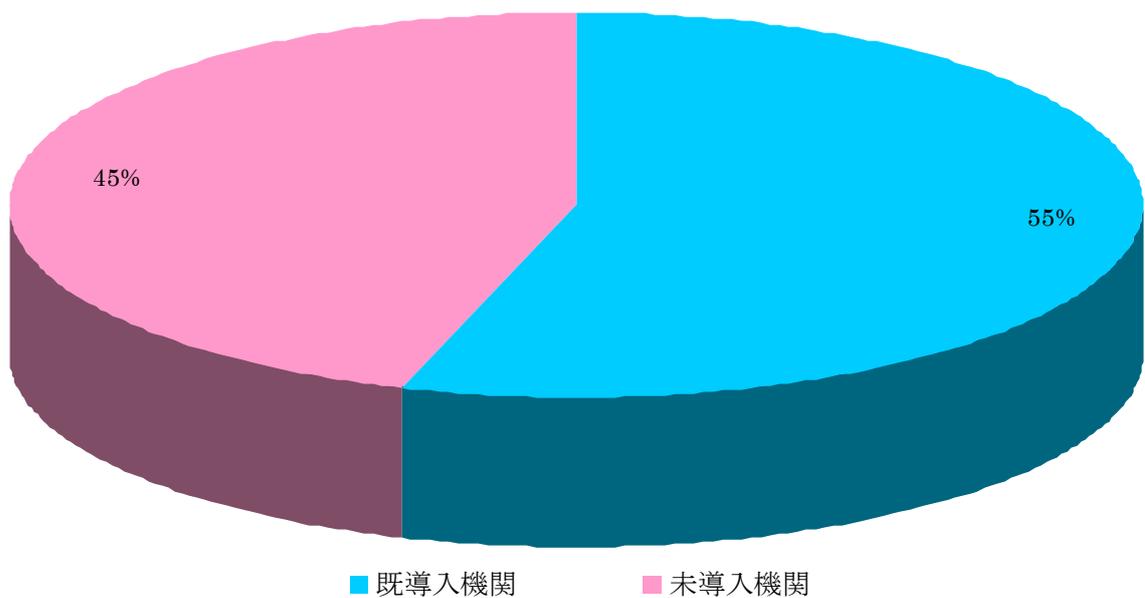
本調査の機関種別ごとの割合は、国立大学 7 機関(35%)、公立大学 1 機関(5%)、私立大学 10 機関(50%)、特殊法人 2 機関(10%)、海外・その他 0 機関(0%)の合計 20 機関である。

図表 1: 調査対象の機関種別



また、導入済み・未導入機関ごとの割合は、既導入機関 11 機関、未導入機関 9 機関である。

図表 2: 調査対象の機関リポジトリ導入状況

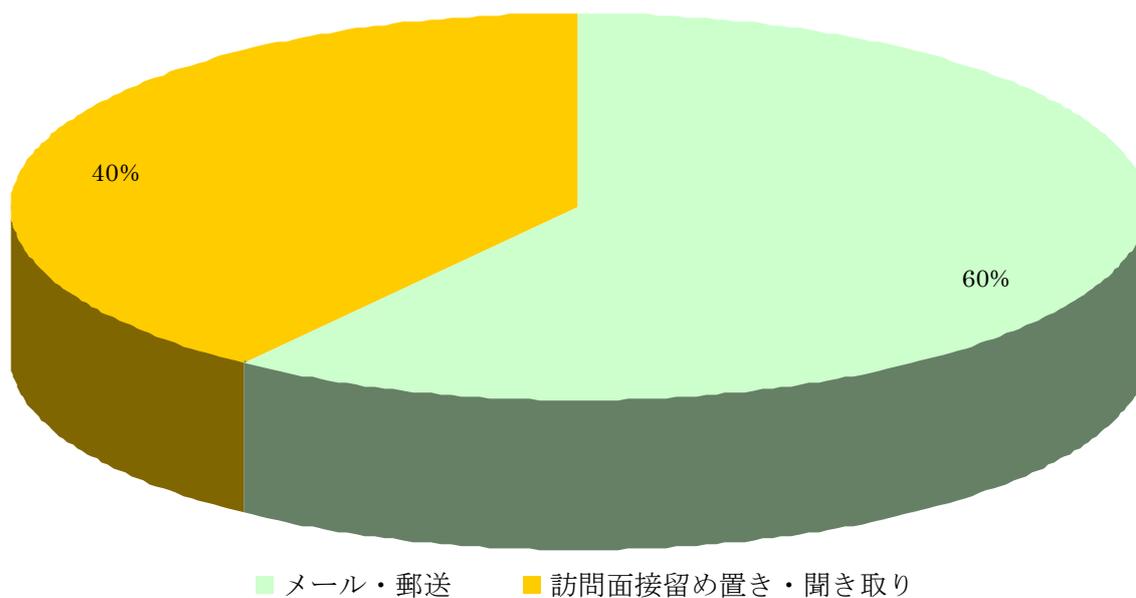


1.3. 調査方法

調査に当たっては、機関リポジトリのシステムを納入した実績を持つ業者を通じて、回答した機関名を公開しないという条件のもと、調査用紙（巻末「参考資料 1」）を電子メール又は郵便により送付する方法並びに訪問面接による方法を用いた。

なお、それぞれの割合は、メール・郵送 60%、訪問面接留め置き・聞き取り 40%である。

図表 3: 調査方法



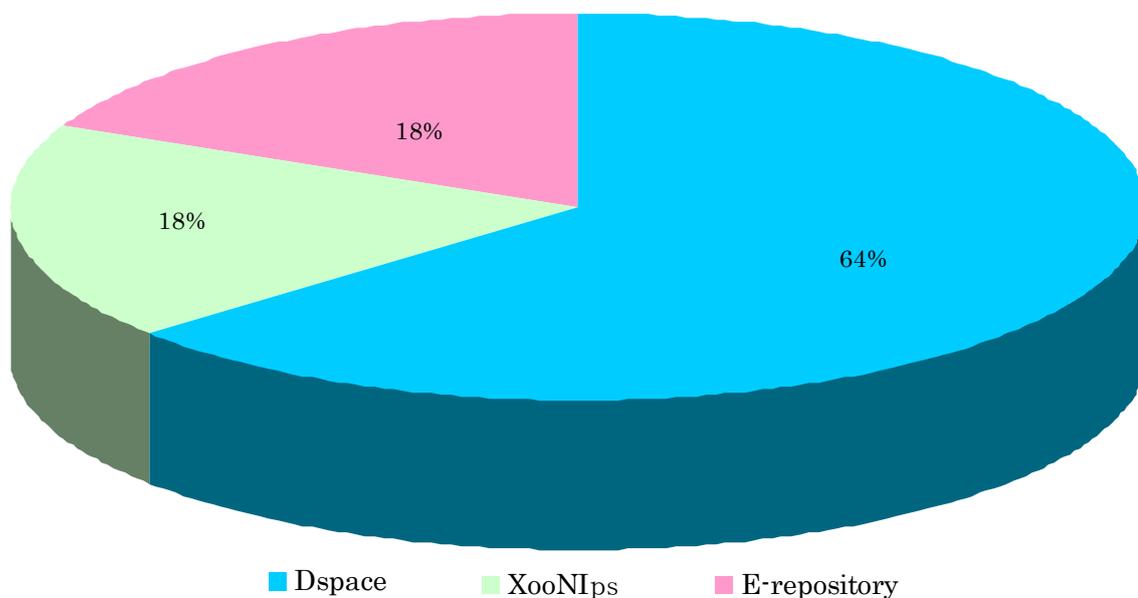
2. 機関リポジトリソフトウェアの導入比率・導入理由・管理体制等（既設置機関対象）

既に機関リポジトリを設置している機関に対して、使用している機関リポジトリのソフトウェア、そのソフトウェアを導入した理由、ハードウェア及びソフトウェア並びにネットワークに関する管理体制についての調査を行った。

2.1. 機関リポジトリソフトウェアの導入比率（調査対象の範囲内）

調査対象機関のうち、既に機関リポジトリを設置している機関が使用している機関リポジトリのソフトウェアの割合は、DSpaceが7機関(64%)、XoonIpsが2機関(18%)、E-repositoryが2機関(18%)である。

図表 4: 調査対象の導入ソフトウェア



2.2. 各機関リポジトリソフトウェアの長所・短所（同一の回答はまとめて記載）

調査により得られた各ソフトウェアの特徴を以下にまとめる。

2.2.1. DSpace（オープンソース）

【長所】

- ・導入コストが比較的安価。（初期コスト平均 100 万～200 万 ※ハード除く）
- ・様々な追加機能が公開されている。（コミュニティが貧弱ではない）
- ・高い普及率で事例が豊富。技術情報に限らず活用にヒント・ノウハウを得やすい。

【短所】

- ・ソースコードが公開されているため、セキュリティ上の脆弱性が見つかりやすい。（実際にセキュリティ検出ソフトウェアを実行した結果、危険度レベル中が 8 箇所検出）
- ・標準機能では画一的な見せ方しかできない。
- ・日本語の検索・分かちエンジンにかなり難がある。
- ・PDF のようなパッケージ型のコンテンツは登録できるが動的 HTML を必要とするようなコンテンツ、ディレクトリ構造を持った複数のファイルで構成されるようなコンテンツの実体管理ができない。
- ・初期構築のコストは低く抑えられても、活用するには技術力、ドキュメントの管理能力など人的資源が必要で、それを外にもとめればカスタマイズ費用が増大する。
- ・コンテンツの登録方法が面倒。（一括、対話型とも）
- ・コミュニティの管理者に適切な権限が付与されていない。
- ・Java エンジン(tomcat)がよく落ちる、安定しない。
- ・一次データ（PDF 等）のアップロードがカスタマイズしない限り必須である。

2.2.2. XooNIps

【長所】

- ・国産のソフトウェアであり日本語化対応が容易。
- ・導入コストが少ない。
- ・規定の条件を満たしている。（Junii2 対応クロスウォーク等）
- ・問い合わせ等の敷居が低い。
- ・PHP で開発されているため自力でもカスタマイズが容易。
- ・自力での導入が容易。

- ・ブログ機能がある。(Xoops が母体のため)
- ・研究グループなど内部的な利用を念頭に置いている。

【短所】

- ・バージョンアップが遅い。
- ・導入事例が少なく、参考意見・情報の入手がしづらい。
- ・バージョンアップ後、カスタマイズ部分が保持されない。
- ・構築業者が少ないため、ソフト開発を依頼すると高額になり、実質依頼できない。
- ・カスタマイズを施さないと使いづらい。
- ・メタデータ項目のカスタマイズが実施しづらい。
- ・構築後の維持に手間がかかる。
- ・ドキュメントやコミュニティが貧弱。
- ・パフォーマンスが良くない。(動作が遅い)
- ・テンプレートが貧弱。

2.2.3. E-repository

【長所】

- ・図書館システムと資源を共有できる。
- ・論文系のデータに限れば、登録しやすい。(一括型、会話型)
- ・DSpace 等に比較すると日本語検索、分かちエンジンが貧弱ではない。
- ・カスタマイズが前提となるが機関の特色にそった業績の管理が可能となる。(所属、プロジェクト、作成者等の典拠管理等)
- ・Java エンジン等を利用していないため、安定稼働。
- ・一次データがなくとも登録が可能。

【短所】

- ・オープンソースに比べると価格が高い。
- ・導入機関で自由に設定変更できる部分が少ない。
- ・機能が少ない。

2.2.4. E-prints

※今回の調査対象に使用している機関はなかったが、海外では大きなシェアを持つため、当プロジェクトで独自に評価を行った。

図表 5: 回答結果から見る各機関リポジトリソフトウェアの比較表

	DSpace	XooNips	E-repository	E-prints
①知名度・認知度、普及率				
知名度・認知度	○	○	×	○
普及率	○	×	○	×
②費用				
導入コストが比較的安価である	○	○	×	○
機能追加時のコストが安価である	○	×	×	○
カスタマイズ時のコストが安価である	×	×	×	×
③必要な技術の難易度				
バージョンアップが容易である	○	○	×	○
自力で導入できる	○	○	×	○
カスタマイズに関わる知識・技術が少なく て済む	×	×	○	×
④機能				
リポジトリソフトウェアとして必要な機能を備えている	○	○	○	○
機能が多い	○	○	×	○
コンテンツの登録が容易である	×	○	○	○
業績管理のしやすさ	×	×	○	×
デザイン・見せ方等に独自性がある	×	×	○	○
日本語化にあたり、問題がない	×	○	○	○
日本語の検索・分かちエンジンに難がない	×	×	○	×
⑤情報量				
サポートサイト等からヒント・ノウハウが得やすい	○	×	×	×
問い合わせのしやすさ	○	×	○	×
⑥他システムとの連携・資源の共有				
他システムと連携しやすい	×	×	○	×
⑦維持				
構築後の維持に手間がかからない	×	×	○	×
⑧セキュリティ、安全性				
セキュリティ上の脆弱性に配慮されている	×	×	○	×
安定稼動に問題がない	×	×	○	×

2.3. 機関リポジトリソフトウェアの選定理由・導入方法

各機関が各ソフトウェアを選定した理由と導入方法を以下にまとめる。

2.3.1. DSpace (オープンソース)

【選定理由】

- ・国内他機関での導入事例が多かった。
- ・継続的なサポートが可能であった。
- ・共同リポジトリとして使用するための大規模なカスタマイズが不要であった。
- ・導入経費を比較し、リポジトリが必要とする基本機能が揃っており、まず体験するには手ごろだと考えた。

【導入方法】

- ・業者に外注。
- ・自力で導入。

2.3.2. XooNIps (オープンソース)

【選定理由】

- ・導入当初、システム運用までの日本語の資料が最も充実していた。
- ・ユーザ管理機能があった。
- ・国内で開発されているため、日本語化の必要がない。質問などの敷居が低い。
- ・ブログ機能があった。

【導入方法】

- ・業者に外注。
- ・自力で導入

2.3.3. E-repository

【選定理由】

- ・図書館システムとセットで調達した。
- ・研究成果・業績の登録が主となるため分かり易い登録インターフェイスと、それなりのカス

タマイズが必要であり、かつ OAI-PMH, RSS 等の機能も必要であった。

【導入方法】

- ・業者に外注。

【参考 1】本調査で評価を行ったソフトウェアの関連サイト

◎ DSpace

- dspace.org
<http://www.dspace.org/>

◎ XoonIps

- XoonIps Official Site
http://xoonips.sourceforge.jp/index.php?ml_lang=ja
- XoonIps 研究会
<http://nijc.brain.riken.jp/xoonips/index.php?Top>

◎ E-prints

- Open Access and Institutional Repositories with EPrints
<http://www.eprints.org/>

【参考 2】本調査で評価を行った以外のソフトウェアの関連サイト

◎ Fedora

- Fedora Commons
<http://www.fedora-commons.org/>

◎ eSciDoc

- eSciDoc
<http://www.escidoc.org/>

◎ Digital Commons

- Digital Commons
<http://www.bepress.com/ir/>

◎ WEKO

○ WEKO

<http://weko.at.nii.ac.jp/>

◎ NetCommons

○ NetCommons2 公式サイト

<http://www.netcommons.org/>

2.4. 機関リポジトリソフトウェア導入後のコンピュータ及びネットワークの管理体制

- ・ 導入当初の構築支援を外注し、その後のソフトウェア保守、障害対応に関する年間契約を同一契約先と結んでいる。簡易な変更は学内で対応するが、その際のコンサルティングも含む。ネットワークに関しては図書館業務システムの Firewall 配下に設置。
- ・ 図書館内で管理している。
- ・ コンピュータはリポジトリ担当部署で管理している。ネットワークについては情報処理センターで管理。
- ・ 学内情報処理部門による自主管理。

3. 機関リポジトリ未設置の理由等（未設置機関対象）

3.1 機関リポジトリ未導入の理由・問題点

- ・機関リポジトリを構築するメリットが見えず、教員の協力を得るための説得力がない。費用対効果も見えない。
- ・CiNii のコンテンツ作成サービスがなくなるため、紀要、学内発行雑誌の管理を自力で行う必要があり機関リポジトリの導入が課題となっているが、現在は予算等の理由により導入に至っていない。
- ・現状の図書館を取り巻く状況（特に予算面、人的リソース）を考えると初期投資コストは100万円程度が限界であり、また専用サーバ等の導入もランニングコストを考えると大変厳しい。
- ・ここ数年の図書館インハウス業務のアウトソーシング化の結果、プロパー職員は管理者のみの状況である。アウトソーシング会社の担当者にリポジトリの運用は委託できない。
- ・図書館の将来構想がなく、優先的なサービスが決まっていない。人員削減のため、スキルを持った人材が確保できない。リポジトリの必要性が認識されていない。
- ・必要性は感じているが、学部移転等のため予算がなく将来的にも導入は厳しいと思われる。

3.2 機関リポジトリソフトウェアに望むこと

- ・図書館システムの一機能という位置づけで導入でき、ボタンを押すだけというのは極論であるが簡易に構築・運用できることが望ましい。

4. 機関リポジトリ構築検討段階での問題

4.1. 機関リポジトリソフトウェアの情報収集における課題

- ・閲覧者として各リポジトリをみるだけでは不足。メタデータ、本文の登録、運用管理機能などについても資料収集や実体験ができることが望ましい。
- ・自分ですべてのソフトウェアをインストールするのは困難なので、ソフトウェアを比較検討できるサイトがあれば役に立つと思う。保守を依頼する業者の情報もあれば良い。
- ・海外のオープンソースを利用する場合、ドキュメントやサポートサイト等の閲覧に英語能力が必須。日本語化するにも時間と費用がかかる。

4.2. 既存リポジトリを一時的に貸すことによる可能性（既設置機関対象）

- ・既にテストサーバを構築しており、参加機関でなくても自由に試用できる。機関リポジトリがどのようなものなのか把握するのに役に立っていると思われる。

4.3. 既存リポジトリを一時的に借りることによる可能性(対象：未導入機関)

- ・試用してメリットが見出されれば、本学でも構築する意欲はでてくる。
- ・機関リポジトリソフトウェアの比較検討のために一時的に試用することができることは良い事だと思うが、評価環境を簡便に構築できるかどうかの問題。(試用ライセンスの配布・自力構築、ノート PC 上に環境を作って、ノート PC ごと貸し出す、そもそも Web アプリケーションなので、ASP 化したサイトを用意する…等)

5. 機関リポジトリ担当者育成の問題

5.1. 機関リポジトリソフトウェアの設定・維持に関する担当者育成の課題

- 理工系大学のため研究室や教員にサポートを頼める可能性はある。(対象がオープンソースのため)
- Web アプリケーションに関する基礎知識、プログラミング体験は担当者に必要だと思われる。特定のソフトウェアごとに初心者向け講習会があると良い。また、アフターケアとしてASK機能を担うところが必要か。
- 適切な人材がない。
- 図書館内のスタッフで恒常的にスキルを維持することは難しい。
- 機関リポジトリに求められる状態にカスタマイズするには専門の技術を備えた職員が必要であり、一般的な講習で習得できる範囲を超えている。専任に近い体制をとるべき。
- カスタマイズ方法のマニュアル化が必要。

6. 共同リポジトリの評価

6.1. 共同リポジトリの評価（カスタマイズ，安定性などの問題）

- サーバやシステムの維持管理のスキルを持たない中小規模の図書館の場合は魅力的な選択肢となりうる。
- 地方や主題別（学部別など）であれば可能性はあるが、東京・大阪圏では不可能と思われる。

7. ユーザ・コミュニティで交換されるべき情報等

7.1. 機関リポジトリソフトウェアに必須と考える機能

- ・ 検索項目の充実。
- ・ OAI-PMH ハーベスト機能。
- ・ Google や Google scholar でも漏れなく拾われるデータ作成機能。
- ・ DOI 付与機能。
- ・ 外部連携機能。(メタデータをまとめて提供・交換・収集し、外部ページからの検索に適切に応答する機能)
- ・ 研究者総覧(業績 DB など)との連携機能
- ・ メタデータセットの変換機能。
- ・ デザイン等をカスタマイズ可能なツール。
- ・ アクセス統計機能。(運用管理者向け、投稿者向け)
- ・ 機関内外、学内外からのアクセス制御機能。
- ・ ハンドルサーバとの連携。
- ・ カスタマイズの容易性。
- ・ 簡単な操作性。
- ・ 誰が見ても理解しやすいナビゲートされるような検索インターフェイス。

7.2. ユーザ・コミュニティの有用性

- ・ コミュニティサイト上でユーザ同士が意見を交換することにより、機能の有用性・問題点等の事例について情報を共有することができる。
- ・ リポジトリのアクセス統計については、機関ごとにサーバのアクセスログを収集して作成しているが、収集方法が機関ごとに異なるため、正確な統計を得ることができない。ユーザ・コミュニティでは、機関ごとにアクセスログをアップロードする機能を設け、アップロードされたアクセスログを管理者が精査することにより、正確なアクセス統計を得ることができると思われる。
- ・ 現在できているコミュニティサイトは、既導入館先にありきで、未導入館によっては利用しにくい。初心者が気軽に質問できるコミュニティサイトへの需要はあると思う。
- ・ DSpace には公式サイトがあるが、英文の技術情報は読みづらいため、日本版のコミュニティサイトがあれば有用だと思われる。
- ・ ブログ、掲示板、ASK(質問箱)のような機能は是非欲しい
- ・ 外付けのカスタマイズ機能を配布でき、かつインプリメントするマニュアルの提供が可能な

環境を希望する。

- 各種リポジトリソフトウェアを体験できたり、カスタマイズソフトウェアをダウンロードできる環境があるのであれば、導入を検討するのに参考になる。
- **wiki** 等のサポートページがあれば、保守をして行く上でとても参考になると思う。

8. まとめ

8.1. 本調査による知見

上掲のとおり、ユーザ・コミュニティサイト構築の有用性を検討するにあたり、20 機関（導入機関 9、未導入機関 11）を対象に、機関リポジトリ導入機関においては機関リポジトリの各種ソフトウェアの評価、運用の実態等に関する調査、未導入機関においては構築する上での障壁、効果、コスト等の検討内容に関する調査を中心に実施し、共通項目として、機関リポジトリ構築検討や担当者育成における問題点、共同リポジトリについての評価等について調査した。本調査による知見を以下にまとめる。

8.1.1. 機関リポジトリ・デモサイトに関して

導入機関については、導入事例が多く、導入機関からの情報提供が豊富でフィードバックが多いオープンソース(Dspace)や日本語対応が容易なオープンソース(XooNips)・サポート体制が整っている商用ソフト(E-repository)が、その特徴を長所として選択されている。

商用ソフトである E-repository については単独導入ではなく、図書館業務システムの一機能として導入している例も見られた。

オープンソースについては、ソースコード等の情報公開が進むがゆえに、セキュリティ上の脆弱性があること、初期コストは安価でもソフトウェアのカスタマイズ等についての技術力・開発コストが求められることが短所として挙げられている。一方、商用ソフトについてはオープンソースに比べコストが高く、自由度が低いことが短所として挙げられている。

未導入機関からは、その理由・問題点として、機関リポジトリ構築に対するメリットが見えないこと、初期投資コストの確保が困難であること、人的資源が確保できないこと等が挙げられており、ソフトウェアについては、図書館業務システムの一機能であり、操作簡便なものが求められている。

機関リポジトリ構築にあたっては、ソフトウェアの情報収集について、運用面全般の資料・情報収集の必要性、実務体験が望まれている。その方法としては試用サイトの構築、ソフトウェアをインストールしたノート PC の貸出等が挙げられている。

担当者育成については、適切な人材が確保できない現状から、専門技術を備えた専任体制や理工系教員等のサポート体制等が挙げられた。

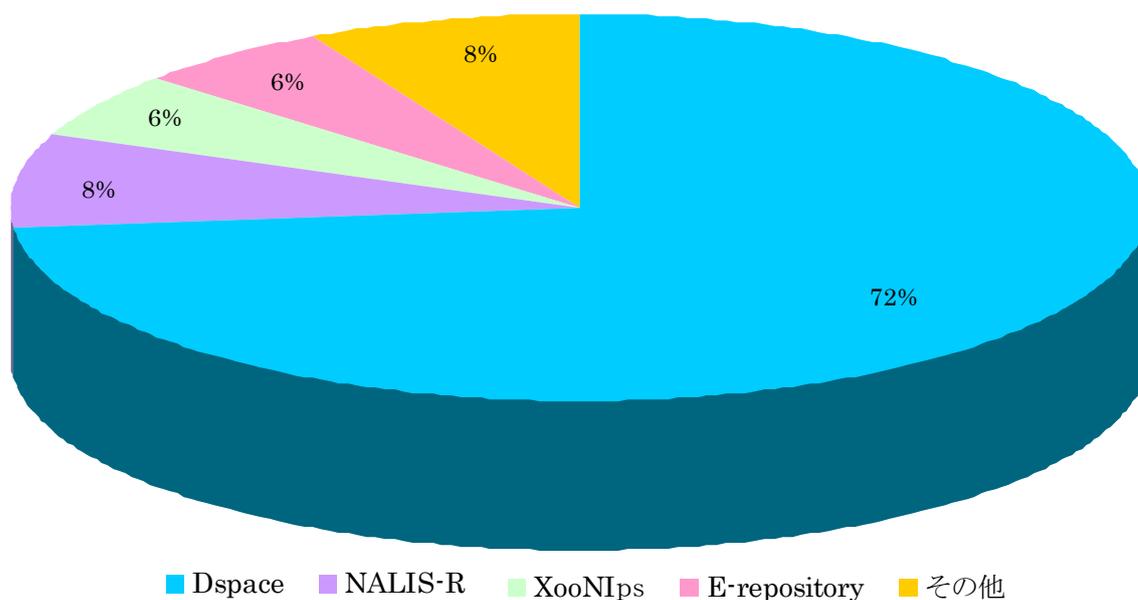
ソフトウェアに必須と考える機能としては、必須条件といえる OAI-PMH ハーベスト機能のほか、サーチエンジン対応、DOI 付与、研究者総覧等の業績 DB との連携、アクセス統計機能、充実した検索インターフェイス、簡便な操作性等が求められている。

下のグラフは、「IRDB コンテンツ分析」(<http://irdb.nii.ac.jp/analysis/>)から得た、国内で使用されている機関リポジトリのソフトウェアの比率である。ここでは複数の機関で機関リポジトリのシステムを共用する、いわゆる「共同リポジトリ」に参加している各機関も別々に計上しているという点は考慮する必要があるものの、DSpace を基礎に作られている NALIS-R までを含めると、実に 8 割が DSpace を使用していることになる。

使用されるソフトウェアが限定されている状況は、複数の異なる機関の機関リポジトリの間で共通した作業を行う必要が生じた場合に、作業量を少なくできる可能性があるものの、他のソフトウェアの長所が反映されず、結果として全体としての機関リポジトリの可能性を奪う可能性もある。

ユーザ・コミュニティサイトにおいては、機関リポジトリのソフトウェアを複数用意し、それらを試用することにより、ソフトウェアの長所・短所を実体験として認識した上でソフトウェアを選定あるいは更新ができることを一つの目的としているが、国内のソフトウェアのシェアという点からも、機関リポジトリのソフトウェアが複数体験できる場の意義は大きく、体験に基づいて、機関リポジトリの各ソフトウェアを比較し、その中で機関リポジトリのソフトウェアが備えるべき機能等に関する議論を深める必要がある。

図表 6: 国内のソフトウェアのシェア



8.1.2. メーリングリスト・SNS に関して

機関リポジトリに関する情報交換を行うためのメーリングリスト等は既に存在するが、今回の調査において、主に未導入機関の担当者から、既存のコミュニティは難解な用語が多用されるといったことや、交換される情報が高度であり初歩的な質問がしづらいなどといったことの指摘があった。

ユーザ・コミュニティでは、各種ソフトウェアの試用を通じたユーザ同士の意見交換の場の提供（ブログ、掲示板、ASK（質問箱））を考えているが、各種マニュアルの提供、標準化した統計作成サポート、未導入機関サポート、Dspace に関する日本語サイトの要望が高く、既存のコミュニティとは別のコミュニティの構築に関して支持するものが大半であった。

また、機関リポジトリのソフトウェアに求められる必須機能、機関リポジトリ構築にあたっての情報提供の場、試用サイトを期待する声は大きく、各種ソフトウェアの体験機能を持つコミュニティサイト、とりわけ未導入機関の担当者が難解と感じるような用語が多用されないようなコミュニティの有用性が立証されたといえる。

8.2. 本調査そのものの問題点

- ・調査対象機関としてリポジトリ導入が比較的初期の機関を対象から外したため、運用した経験から発生する各種の問題点の把握ができなかった。
- ・調査対象の組織及び担当者は図書館関係者（一部研究機関は例外）であった。コンテンツ提供者、エンドユーザにも調査範囲を広げるべきであった。

8.3. 本調査における反省点

- ・調査対象機関のリポジトリ構築に関する目的意識、コスト、導入効果にかなりの温度差が感じられた。調査対象機関そのものもあらかじめ選定するべきであったかもしれない。
- ・費用に関する部分（特に導入済み機関）に関しては、具体的な数字、調達方法等が把握できなかった。

8.4. 本調査には直接関係ないが主に未導入館の意見

- CINII のコンテンツサービスが中止になることにより学内発行雑誌、紀要類の自館作成の必要性が新たに発生。リポジトリ導入→OAI→JAIRO→CINII の流れは気になる。
- 図書館システムの雑誌チェックインシステム→内容の入力（メタデータ）→PDF アップロード→OPAC 及び OAI が実現できれば学内発行雑誌、紀要類についての専用リポジトリサーバは不要になるのではないか。
- 本格的にコンテンツが蓄積された結果として、OPAC とリポジトリコンテンツとのシームレスな横断検索がほしい。

【参考資料 1】 本調査に係る調査票

■調査の目的・趣旨

ここ、数年間で導入された各種リポジトリソフトウェアの評価・運用の実態の調査を行い、既導入機関へは、オープンソフトウェアを頒布するコミュニティサイトの構築、未導入機関へはリポジトリソフトウェアの体験・情報提供等のサイト構築を CSI 事業に対して提案することを目的とする。

■アンケート内容

●機関リポジトリの現状

1.導入されているリポジトリソフトウェアについて

回答例：Dspace 1.3

●導入されているリポジトリソフトウェアの長所・短所

1.長所

回答例：導入コストが比較的廉価

2.短所

回答例：カスタマイズの費用が高価

●導入されているリポジトリソフトウェアの選定理由・導入方法

1.理由

回答例：他機関での導入事例が多かった

2.方法

回答例：業者に外注

●コンピュータ及びネットワークの管理体制

回答：

●機関リポジトリ構築上の課題

回答：

●機関リポジトリの一時試用の可能性

(借りること、貸すことの可能性)

回答：

●機関リポジトリソフトウェアの設定・維持に関する担当者育成の課題

回答：

●共同リポジトリの評価（共同リポジトリ運用の場合）

回答：

●機関リポジトリソフトウェアに必須と考える機能

回答：

●ユーザコミュニティサイト（目的欄）の有用性

回答：

【参考資料 2】 回答データ

本報告書を作成するにあたり、各機関へ配布・回答したデータを添付する。

■メール回答機関その1

●機関リポジトリの現状

- 1.導入されているリポジトリソフトウェアは何でしょうか

XooNIps

●導入されているリポジトリソフトウェアの長所・短所

- 1.長所

- ・導入コストが廉価である
- ・ブログ機能を持つ
- ・研究グループなど内部的な利用を念頭においている

- 2.短所

- ・カスタマイズを施さないと使いづらい
- ・メタデータ項目のカスタマイズを行い難い
- ・構築後の維持に手間がかかる
- ・ドキュメントやコミュニティーが貧弱
- ・テンプレートやプラグインが貧弱
- ・パフォーマンスが良くない
- ・シェアが小さい

●リポジトリソフトウェアの選択理由と導入方法

- 1.理由

- ・大学や図書館ではなく、他の研究機関での導入事例が多かった
- ・ブログ機能を持っていた
- ・研究グループなど内部的な利用を念頭においている

- 2.方法

- ・リポジトリ導入業者による導入支援

●コンピュータ及びネットワークの管理体制

- ・組織全体のそれらを統括する部署と、部門のそれらを管轄する部署が共同管理

●機関リポジトリ構築上の課題

(機関リポジトリソフトウェア収集の課題)

- ・外部に研究成果を公表する機能と、内部で研究資産を登録・共有・保管する機能との両立

- 機関リポジトリの一時試用の可能性
 - (他機関に対し借りるまたは貸すことの可能性)
 - ・既に行っている
- 機関リポジトリソフトウェアの設定・維持に関する担当者育成の課題
 - ・人材不足
- 共同リポジトリの評価（共同リポジトリ運用の場合）
 - ・運用していない
- 機関リポジトリソフトウェアに必須と考える機能
 - ・内部で研究資産を登録・共有・保管し，研究者間の情報流通と知的交流を促進する機能
 - ・研究者にセルフサービスで登録する意欲を沸かせる機能
- 調査の目的としてあげたユーザコミュニティサイトの有用性
 - ・維持管理に非常に重要で大きな期待をもっている
- その他（何でも結構です）
 - ・特に無し

■メール回答機関その2

- 機関リポジトリの現状
 - 1.導入されているリポジトリソフトウェアは何でしょうか
DSpace
- 導入されているリポジトリソフトウェアの長所・短所
 - 1.長所
 - ・大学ごとに作業領域を分けることができる
 - ・導入コストが廉価である
 - 2.短所
 - ・登録方法が面倒（個別・一括）
 - ・コミュニティの管理者に適切な権限が付与されていない
- リポジトリソフトウェアの選択理由と導入方法
 - 1.理由
 - ・他機関での導入事例が多かった
 - ・継続的なサポートが可能であった
 - ・共同リポジトリとして使用するための大規模なカスタマイズが不要であった
 - 2.方法
 - ・業者による導入

- コンピュータ及びネットワークの管理体制
回答：地域国立大学図書館に委託
- 機関リポジトリ構築上の課題
(機関リポジトリソフトウェア収集の課題)
回答：自分ですべてのソフトウェアをインストールするのは困難なのでソフトウェアを比較検討できるサイトがあればうれしい。できれば保守を依頼できる業者の情報もあればいい。
- 機関リポジトリの一時試用の可能性
(他機関に対し借りるまたは貸すことの可能性)
回答：既に行っている。またテストサーバを構築しており、参加機関でなくても自由に試用できる(XX 県大学図書館協議会加盟館のみ)
- 機関リポジトリソフトウェアの設定・維持に関する担当者育成の課題
回答：サーバ管理者が必要な知識をどのように獲得するか、システムに興味のある人材をどのように引き込むか。
- 共同リポジトリの評価(共同リポジトリ運用の場合)
回答：運用方法によってソフトウェアに対する要件も違うので一概には言えないが、XX の場合はいくつかのカスタマイズを行えば、共同リポジトリとしての運用が可能になった。
- 機関リポジトリソフトウェアに必須と考える機能
回答：回答なし
- 調査の目的としてあげたユーザコミュニティサイトの有用性
回答：非常に重要だと思う。初心者が気軽に質問できるコミュニティサイトへの需要はある。
- その他

■メール回答機関その3

- 機関リポジトリの現状
 - 1.導入されているリポジトリソフトウェアは何でしょうか
DSpace 1.4.1
- 導入されているリポジトリソフトウェアの長所・短所
 - 1.長所
 - ・導入コストが廉価である
 - ・コミュニティ&コレクションでアイテムを階層化できる
 - 2.短所
 - ・標準機能では、検索が貧弱だったり、データの表示方法等が洗練されておらず、大

幅なカスタマイズが必要である。

●リポジトリソフトウェアの選択理由と導入方法

1.理由

- ・国内大学の導入実績が多かった

2.方法

- ・業者に外注

●コンピュータ及びネットワークの管理体制

回答：サーバのハード及び OS レベルの管理は総合情報処理センターの担当部署が担当し、リポジトリシステム（DSpace）については、保守契約により外注している。

●機関リポジトリ構築上の課題

（機関リポジトリソフトウェア収集の課題）

回答：特に無し

●機関リポジトリの一時試用の可能性

（他機関に対し借りるまたは貸すことの可能性）

回答：予定なし

●機関リポジトリソフトウェアの設定・維持に関する担当者育成の課題

回答：当館程度の規模の大学図書館にとって、図書館内のスタッフで恒常的にスキルを維持することは難しい。

●共同リポジトリの評価（共同リポジトリ運用の場合）

回答：サーバやシステムの維持管理のスキルを持たない中小規模の図書館の場合、魅力的な選択枝となると思う。

●機関リポジトリソフトウェアに必須と考える機能

回答：（DSpace の短所としてあげた点と矛盾するが、）導入機関ごとに異なる要求に対応できるように、柔軟なカスタマイズが容易に可能であること。

●調査の目的としてあげたユーザコミュニティサイトの有用性

回答：システムのカスタマイズ方法などを共有できれば、システム導入時やシステムの改善を図る際に役に立つと思う。

●その他（何でも結構です）

■メール回答機関その4

●機関リポジトリの現状

1.導入されているリポジトリソフトウェアは何でしょうか

XooNIps (理化学研究所) + XooNIps Library Module (慶應義塾大学)

●導入されているリポジトリソフトウェアの長所・短所

1.長所

- ・国産のソフトウェアであり、日本語対応化の作業が不要
- ・導入コストがかからない
- ・規定の条件を満たしている (Junii2, OAI-PMH)
- ・日本での開発のため、情報が日本語で得られる
- ・導入後の管理・維持が比較的容易
- ・ソフトウェアは無料
- ・日本語で開発されているため日本語化の必要がない
- ・英語にも対応している
- ・国内で開発されているため、質問などの敷居が低い
- ・PHP で開発されているため自力でも比較的カスタマイズし易い
- ・リポジトリソフトウェアの自力での導入が比較的容易と思われる。
- ・ユーザ管理機能が備わっている

2.短所

- ・バージョンアップが遅い (DSpace のように有志で欲しい機能を開発...などはないので)
- ・導入事例が少なく、参考意見を聞きにくい
- ・バージョンアップ後、カスタマイズ部分は保持されない
- ・他機関での導入事例が少ない
- ・カスタマイズの費用が高価
- ・業績 DB などとの連携への開発がリポジトリソフトとして多く用いられている
- ・Dspaceの方が進んでいるように思われる。
- ・世間の急速な流れにバージョンアップが追いついていない

●導入されているリポジトリソフトウェアの選択に理由・方法

1.理由

- ・導入当初、システム運用までの日本語の資料が最も充実していた(と思われる)。
- ・ユーザ管理機能があった
- ・ソフトウェアは無料
- ・日本語で開発されているため日本語化の必要がない
- ・国内で開発されているため、質問などの敷居が低い

2.方法

- ・自力導入

●コンピュータ及びネットワークの管理体制

- ・コンピュータはリポジトリ担当部署で管理。ネットワークについては情報処理センターで管理。

- 機関リポジトリ構築上の課題
 - ・本学が望む画面（ロゴ、リンクメニュー）などを作り込むために専門的な技術・労力が必要だったこと。
- 機関リポジトリ構築上の課題
（機関リポジトリソフトウェア収集の課題）
 - 回答：なし
- 機関リポジトリの一時試用の可能性
（借りること、貸すことの可能性）
 - 回答：なし
- 機関リポジトリソフトウェアの設定・維持に関する担当者育成の課題
 - ・現在、機関リポジトリに求められる状態にカスタマイズするには、専門の技術を備えた職員が必要で、一般的な講習等で習得できる範囲を超えている。
 - ・管理に関しても専門の知識を備えた職員が必要である。
 - ・知識を得た担当者が維持管理できるよう専任に近い体制をとるべき
- 共同リポジトリの評価（共同リポジトリ運用の場合）
- 機関リポジトリソフトウェアに必須と考える機能
 - ・統合検索のためにハーベストされる機能
 - ・統合検索のハーベストに完全に対応していること。及び変更があった場合は即時に対応できること。
 - ・どんな種類のコンテンツにも柔軟に対応できること
 - ・エンドユーザが自力で登録できる迷いのないインターフェイス
- ユーザコミュニティサイト（目的欄）の有用性
 - ・同じシステムを導入している他機関との情報交換ができればよいと思います。

■メール回答機関その5

- 機関リポジトリの現状
 - 1.導入されているリポジトリソフトウェアは何でしょうか
Dspace 1.4.1
- 導入されているリポジトリソフトウェアの長所・短所
 - 1.長所
 - ・導入コストが比較的廉価。
 - ・様々な追加機能が公開されている。
 - ・高い普及率で事例が豊富。技術情報に限らず、活用のノウハウ・ヒントを得やすい。
 - 2.短所
 - ・標準機能だけでは、画一的な見せ方しかできない。

- ・日本語の検索能力に難点がある。
- ・PDFのようなパッケージ型のコンテンツは登録できるが、動的HTMLを必要とするようなコンテンツ、ディレクトリ構造をもった複数のファイルで構成されるようなコンテンツの実体管理ができない。
- ・様々な追加機能が公開されているが、自学の環境でそれが適用可能であるかどうかを、技術的に評価することが困難でなかなか導入できない。初期構築のコストは低く抑えることができて、活用するには技術力、ドキュメント管理能力など人的資源が必要で、それを外に求めればカスタマイズ費用が増大する。

●導入されているリポジトリソフトウェアの選択に理由・方法

1.理由

- ・導入経費の比較。
- ・他機関での導入事例が多かったこと。
- ・リポジトリが必要とする基本機能が揃っており、どんなことができるのか、まず体験するには手頃だと考えた。

2.方法

- ・複数業者による見積合わせ→業者委託

●コンピュータ及びネットワークの管理体制

回答：導入当初の構築支援を外注しその後のソフトウェア保守、障害対応に関する年間契約を同一契約先と結んでいる。簡易な変更は学内で対応するが、その際のコンサルティングを含む。

ネットワークに関しては図書館業務システムの FireWall 配下に設置。

●機関リポジトリ構築上の課題

(機関リポジトリソフトウェア収集の課題)

回答：閲覧者として各リポジトリをみるだけでは不足。

メタデータ、本文の登録、運用管理機能などについても資料収集や実体験ができることが望ましい。

●機関リポジトリの一時試用の可能性

(借りること、貸すことの可能性)

回答：機関リポジトリソフトウェアの比較検討のために一時的に試用することができることは良い事だと思うが、評価環境を簡便に構築できるかどうか。

- ・試用ライセンスの配布—自力構築
- ・ノート PC 上に環境を作って、ノート PC ごと貸し出す
- ・そもそも Web アプリケーションなので、ASP 化したサイトを用意する

●機関リポジトリソフトウェアの設定・維持に関する担当者育成の課題

回答：Web アプリケーションに関する基礎知識、プログラミング体験は担当者に必要なと思われる。特定のソフトウェア毎に、初心者向け講習会があるとよい。また、アフターケアとして Ask 機能を担うところが必要か。

●共同リポジトリの評価（共同リポジトリ運用の場合）

回答：該当せず

●機関リポジトリソフトウェアに必須と考える機能

回答：外部連携機能

- ・メタデータをまとめて提供、交換、収集する機能
- ・特定の1コンテンツへの外部からの参照に適切に応答する機能
- ・外部ページからの検索に一覧表で答える機能

研究者総覧(業績DBなど)との連携機能

- ・コンテンツ収集のための連携
- ・研究者総覧の機能強化（本文コンテンツの提供）

メタデータセットの変換機能

（外部連携だけでなく内部的な付け替え機能が欲しい）

検索機能

ショーケースとしての見せ方、デザインをカスタマイズするツール

（電子ジャーナル風、研究者紹介風、プロジェクト(機関)紹介風など）

アクセス統計機能

（運用管理者向け、投稿者向け）

セルフアーカイヴィング機能

運用担当者のチェック機能

エンバーゴ対応

ユーザ管理機能

機関内／外、学内者の学外からのアクセス制御

●ユーザコミュニティサイト（目的欄）の有用性

回答：例えば、DSpaceならば、<http://www.dspace.org/>があるが、英文の技術情報を読み解くのは辛い。日本版のコミュニティサイトがあれば有用だと思います。

技術情報中心のコミュニティサイトは、ユーザだけで成り立つかどうかは疑問がある。

技術担当者の育成、新技術の紹介、オープンソフトウェア導入のコンサルティングを継続的に行える体制がつかれるかどうか。

■メール回答機関その6

●機関リポジトリの現状

1.導入されているリポジトリソフトウェアは何でしょうか

- ・ Dspace 1.4

- 導入されているリポジトリソフトウェアの長所・短所
 - 1.長所
 - ・導入コストが比較的廉価
 - ・他機関の導入実績が多いため比較参照が可能
 - 2.短所
 - ・カスタマイズが困難
 - ・閲覧用インターフェイスが機能不足他多数
- 導入されているリポジトリソフトウェアの選択に理由・方法
 - 1.理由
 - ・ランニングコストが総合的に安価と思われた。
 - ・他機関の導入事例が多かった
 - 2.方法
 - ・見積合わせによる業者導入
- コンピュータ及びネットワークの管理体制
 - ・図書館のシステム担当係と保守契約業者
- 機関リポジトリ構築上の課題
(機関リポジトリソフトウェア収集の課題)
(コンテンツ収集の課題のことでしょうか?)
 - ・セルフアーカイブ機能のカスタマイズ
 - ・他システム連携のカスタマイズ
- 機関リポジトリの一時試用の可能性
(借りること、貸すことの可能性)
 - ・趣旨と仕組みと条件次第
- 機関リポジトリソフトウェアの設定・維持に関する担当者育成の課題
 - ・(回答不能)
- 共同リポジトリの評価(共同リポジトリ運用の場合)
 - ・(該当なし)
- 機関リポジトリソフトウェアに必須と考える機能
 - ・コンテンツへ永続 URI の付与
- ユーザコミュニティサイト(目的欄)の有用性
 - ・情報交換と共有が図られるサイトは何れにしろ有用かと思われます。

■メール回答機関その7

●機関リポジトリの現状

1.機関リポジトリを導入されていない理由・予定

回答：図書館の将来構想がなく、優先的なサービスが決まっていないため。

人員削減と、スキルをもった人材がいないため。

リポジトリの必要性が館員に認識されていないため。

個人的には、リテラシー支援や蔵書構築などを、リポジトリより優先すべき課題と考えています。

●コンピュータ及びネットワークの管理体制

回答：ネットワークは図書館外の部署（大学の総務課）で管理しています。

館内の機械化委員会で館内のシステムを管理していて、主な仕事は故障対応です。新たなサービス展開などの提言は委員会の守備範囲と認識されています。

●機関リポジトリ構築上の課題

回答：図書館システムの一部として備わっているのですが、使うかどうかの判断のできないことが大きな課題です。導入しない理由と重なります。

●機関リポジトリの一時試用の可能性（借りること、貸すことの可能性）

回答：現時点ではありません。理由は、導入しない理由に述べたとおりです。

●機関リポジトリソフトウェアの設定・維持に関する担当者育成の課題

回答：リポジトリに関する技術的なスキルより以前の課題として、組織としてのプロジェクト管理と、個人の社会人としてのスキル（コミュニケーション能力、自分の仕事の周辺知識）が不十分だと考えています。

●共同リポジトリの評価（共同リポジトリ運用の場合）

回答：XXの例しか知りませんが、中小の図書館にとってはデータの投入だけに集中すればよいため、導入のハードルが低くなると思います。

●機関リポジトリソフトウェアに必須と考える機能

回答：よくわかりません。「サルでもできる」データ投入画面でしょうか。

●ユーザコミュニティサイト（目的欄）の有用性

回答：そうですね。いろいろあればよいと思います。意見交換や質問できる環境は必要です。wikiのような新しいスタイルのツールは、私も含めて使い慣れていない図書館員は多いので、使い方の研修が必要でしょう。

●その他

リポジトリに関しては、デジタル化した資料の公開性を高める上で有効な仕組みだと思います。図書館のサービス範囲を拡大し、図書館界の情報流通における地位を向上することも可能になります。なによりも、図書館員が連絡調整図書館員（リエゾンライブラリアン）に育っていく道筋になると思います。

■メール回答機関その8

●機関リポジトリの現状

1.導入されているリポジトリソフトウェアは何でしょうか

回答→これから検討

●導入されているリポジトリソフトウェアの長所・短所

※回答なし

●導入されているリポジトリソフトウェアの選択に理由・方法

※回答なし

●コンピュータ及びネットワークの管理体制

回答：ネットワーク管理＝情報処理センター図書館で使用する各種システム＝図書館で管理もしくは、システムを導入したメーカーとメンテナンス契約

●機関リポジトリ構築上の課題

(機関リポジトリソフトウェア収集の課題)

回答：機関リポジトリを構築するメリットが見えないため、教員の協力を得るための説得力がない。費用対効果も見えない

●機関リポジトリの一時試用の可能性

(借りること、貸すことの可能性)

回答：お試して借りることができるのであれば、使用してメリットが見出されれば、本学でも構築する意欲はでてくる。

●機関リポジトリソフトウェアの設定・維持に関する担当者育成の課題

回答：未導入のため、不明。ただし、理工系大学なので研究室や教員にサポートを頼める可能性はある（対象がオープンソースなので）

●共同リポジトリの評価（共同リポジトリ運用の場合）

回答：

●機関リポジトリソフトウェアに必須と考える機能

回答：検索項目の充実

OAI-PMH ハーベスト機能

Google や Google scholar でも漏れなく拾われるデータ作成機能今の現状だと拾われていないように思われる

DOI 付与機能

●ユーザコミュニティサイト（目的欄）の有用性

回答：どのように回答すればよろしいでしょうか？問いの意味がわかりません。

有用だと思います。現在できているコミュニティサイトは未導入館にとっては利用しにくいものです。既に導入館オンリー状態で先に走っているように見えます。利用者が図書館関係者という限られた中ですので、さまざまな人

が利用するようなオープンソースのコミュニティサイトと異なり、多様性に欠けている感じがします。

●その他

■メール回答機関その9

●機関リポジトリの現状

1.導入されているリポジトリソフトウェアは何でしょうか

DSpace 1.5.1

●導入されているリポジトリソフトウェアの長所・短所

1.長所

- ・導入コストが比較的安価
- ・先行事例が多く、構築しやすい。

2.短所

- ・システムに対しての高度な知識が必要である。

●導入されているリポジトリソフトウェアの選択に理由・方法

1.理由

- ・先行事例が多い
- ・ソフトウェア費用がかからない。

2.方法

- ・自力導入

●コンピュータ及びネットワークの管理体制

回答：学内情報処理部門による自主管理

●機関リポジトリ構築上の課題

(機関リポジトリソフトウェア収集の課題)

回答：特になし

●機関リポジトリの一時試用の可能性

(借りること、貸すことの可能性)

回答：予定なし

●機関リポジトリソフトウェアの設定・維持に関する担当者育成の課題

回答：カスタマイズ方法のマニュアル化

●共同リポジトリの評価（共同リポジトリ運用の場合）

回答：予定なし

●機関リポジトリソフトウェアに必須と考える機能

回答：ハンドルサーバとの連携、ハーベスティングへの対応
カスタマイズの容易性

●ユーザコミュニティサイト（目的欄）の有用性

回答：とにかく誰でも参加できるサイトをつくって欲しい。現状のコミュニティサイトは敷居が高すぎる

■メール回答機関その10

●機関リポジトリの現状

1.機関リポジトリを導入されていない理由・予定

回答：必要を感じるが予算がない。大学・短大キャンパスの一部がXXからXXに移転する予定があり、これにかなりの予算が割かれるため、将来的にも無理ではないかと思う。

●コンピュータ及びネットワークの管理体制

回答：情報センターが責任を負うことになると思うが、ただサーバを置くだけでサポートは外部からのリモートになるのではないか。

●機関リポジトリ構築上の課題

（機関リポジトリソフトウェア収集の課題）

回答：海外のオープンソースを日本語化した場合、結構な価格になりますね。

●機関リポジトリの一時試用の可能性

（借りること、貸すことの可能性）

回答：なし

●機関リポジトリソフトウェアの設定・維持に関する担当者育成の課題

回答：図書館システムでも四苦八苦している状態ですので、なかなか難しいですね。

●共同リポジトリの評価（共同リポジトリ運用の場合）

回答：地方、主題別（例えば教育学部など）なら可能性はあるが、東京では無理なのでは。本学で唯一可能性があるとするれば、本学を入れて5女子大学で運用する「教職大学院大学」でのリポジトリかも。

●機関リポジトリソフトウェアに必須と考える機能

回答：簡単な操作性

●ユーザコミュニティサイト（目的欄）の有用性

回答：各種リポジトリソフトウェアを体験できる環境。詳しい人が何人か入らないと難しいかも。

■メール回答機関その1 1

●機関リポジトリの現状

1.導入されているリポジトリソフトウェアは何でしょうか

E-Repository

●導入されているリポジトリソフトウェアの長所・短所

1.長所

- ・導入コストがないわけではないが、現在の図書館システム調達仕様の中に含まれている。
- ・ユーザインタフェースがやさしい
- ・画面型での一括登録機能がある
- ・無償で構築サポートをしてくれる

2.短所

- ・Dspace, XooNIPS を利用して比較したわけではないが、パラメータによる変更要素が少ないように感じる

●導入されているリポジトリソフトウェアの選択に理由・方法

1.理由

- ・長所にも記載したが、改めての予算化の必要がなかった。（コンテンツ作成は別）
- ・保守を委託できる。
- ・図書館システムとの連携が容易

2.方法

- ・図書館システムの調達に含んでいた。

●コンピュータ及びネットワークの管理体制

回答：学内のシステム部門による管理

●機関リポジトリ構築上の課題

回答：コンテンツの収集にあたり学内のコンセンサスが得られない。

●機関リポジトリの一時試用の可能性

(借りること、貸すことの可能性)

回答：予定なし

●機関リポジトリソフトウェアの設定・維持に関する担当者育成の課題

回答：なし

●共同リポジトリの評価（共同リポジトリ運用の場合）

回答：予定なし

●機関リポジトリソフトウェアに必須と考える機能

回答：ハーベスト機能（されるほうでなく、する機能）

横断検索機能

●ユーザコミュニティサイト（目的欄）の有用性

回答：他機関での運用の事例、効率的な広報等の事例を知りたい

同一ソフトウェアを利用している機関の情報、カスタマイズ機能の配布サイト

■メール回答機関その12

●機関リポジトリの現状

1.導入されているリポジトリソフトウェアは何でしょうか

DSpace 1.3

DSpace 1.4

●導入されているリポジトリソフトウェアの長所・短所

1.長所

- ・導入コストが比較的廉価。本学で今後様々なコンテンツを登録する上で最適と考えた。
- ・先行事例が多く、構築しやすい。

2.短所

- ・Linux, PostgreSQLの基本的な知識を要求される。

●導入されているリポジトリソフトウェアの選択に理由・方法

1.理由

- ・本学は Dspace を機関リポジトリとしての目的でなく、研究用標本データ等の蓄積機能として採用。その後業績データの蓄積を実施し、来年度より機関リポジトリとしても稼働するため、同一のソフトウェアが望ましかった。
- ・ソフトウェア費用がかからない。大学の予算はコンテンツ作成費用に利用する。

2.方法

- ・業者とコンサルタント契約を結び、教育を実施。基本的な部分は本学で実施している。

●コンピュータ及びネットワークの管理体制

回答：学内のシステム部門による管理

●機関リポジトリ構築上の課題

回答：システムの課題は少ない。各種コンテンツの見せ方、収集、広報が課題。

●機関リポジトリの一時試用の可能性

(借りること、貸すことの可能性)

回答：予定なし

●機関リポジトリソフトウェアの設定・維持に関する担当者育成の課題

回答：学内に専門担当を配置しているため維持・育成の課題は少ない。また専門的

な不明点はコンサルタント契約を締結している業者に問い合わせている。

●共同リポジトリの評価（共同リポジトリ運用の場合）

回答：予定なし

●機関リポジトリソフトウェアに必須と考える機能

回答：アクセス統計（純粹な）

研究業績連携機能

●ユーザコミュニティサイト（目的欄）の有用性

回答：既に導入して期間が経過しているため、本学としてはリポジトリ選定のためのサイトにはあまり興味がない。可能であればカスタマイズソフトウェアの配布、先進的な事例の紹介等を期待する。

■個別聞き取り機関（8 機関分サマリ）

●機関リポジトリの現状

- ・学内のコンセンサスが取れない
- ・本学は歴史も古く利用者数も 15,000 人規模の比較的大規模に属する大学である。導入の必要性は感じているが比較的保守的な大学のため、リーダーシップを誰がとるかという最初の部分で踏ん切りがつかない。
- ・構築することが決まった場合、数百万程度の予算処置（システム費）は問題はないと考えている。
- ・導入することが決まった。これから学内発行雑誌を手始めに構築していく、招待的にはチュートリアル、E-ラーニング等のコンテンツも管理できればと考えている。
- ・導入することが2月に決まった。まずはCINIIに登録している紀要類を登録。
- ・CINIIのコンテンツ作成サービスも終了し大変困っている。機関リポジトリを導入したいが図書館のアウトソーシングの流れにより専門スタッフを割り当てできない。共同リポジトリのオファーもあるが、少々心細い。
- ・導入したい。しかし予算的には最大で100万円程度しか拠出できない。
- ・本機関は研究機関のため、当初の思惑は当時運用していた研究成果のデータベースが陳腐化し保守も滞りがちであったため、商用のリポジトリを本研究所向に所属、プロジェクト等を典拠化するカスタマイズを依頼し、構築した。
- ・リポジトリの導入に非常に興味がある。図書館でなく全学のテーマとして今後構築に向けて検討していく。

●コンピュータ及びネットワークの管理体制

- ・情報センターで管理
- ・図書館で管理（業者に保守を委託）
- ・システムは業者に委託。ハードウェアはデータセンターを利用

- 機関リポジトリ構築上の課題
 - ・新たなサーバを設置し、管理者を置くことは無理。
 - ・管理は図書館システム内で管理するしかない
 - ・学内のコンセンサス
 - ・収集するコンテンツの選択
- 機関リポジトリの一時試用の可能性
(借りること、貸すことの可能性)
 - ・お借りできるところがあれば一時借用したい
 - ・貸すことは考えていない。(考えられない)
- 機関リポジトリソフトウェアの設定・維持に関する担当者育成の課題
 - ・保守契約を締結している。今後も担当者を育成する予定はない
 - ・今後導入した場合でもシステム的な担当者をおく予定はない
 - ・コンテンツの管理については図書館で管理することになる
- 共同リポジトリの評価 (共同リポジトリ運用の場合)
 - ・興味がある。あった。しかし現実には体制含め不安な面もあり現在は静観。
 - ・共同リポジトリなる存在は初めて知った。都内にあるのですか。
- 機関リポジトリソフトウェアに必須と考える機能
 - ・とにかく専門知識がなく、簡単に構築運用できること。
 - ・フリーなソフト・機能を簡単に組み込むことができるシステム
 - ・専門的なコマンドを投入するとか、監視するような運用はできないため簡単な運用ができるシステムを希望
 - ・同一機関内に複数のリポジトリが存在する。データの連携が簡易にできるよう OAI 等を簡単に拡張できる機能
 - ・業績システムとの冗長的なデータの管理はやめたい。そのための連携機能
 - ・図書館システム (雑誌チェックイン) とのシームレスな連携
 - ・無理とは思いますがコンテンツ作成ツール (PDF 等のスキャニング) とのシームレスな連携
- ユーザコミュニティサイト (目的欄) の有用性
 - ・これから導入するため非常に興味がある。できれば敷居を低くしてほしい
 - ・費用は有償ではないのですよね。
 - ・カスタマイズは今後必要になっていくと思うが、共通的に利用できる機能はフリーソフトウェアとして配布できるようなコミュニティが欲しい
 - ・とにかく、初期の計画から、予算処置、広報、構築、運用にいたる事例を紹介してほしい
 - ・どの程度予算が必要か、ハードウェア、システム費、コンテンツ外注費等の相場をやるための情報を発信できないか。
 - ・自由にリポジトリソフトウェアを体験させてほしい。できれば海外のシステムを日

本語化したものを。

- ・ 専門的な技術に関する情報を提供していただけないか。